

科目番号	3	科目名	東アジアの多様性の理解	
英文科目名				
大学・短期大学名	滋賀		大学	
連絡先	滋賀大学学務課総務係			
	TEL :	0749-27-1017	FAX :	0749-24-5122
担当教員	福浦 厚子		(経済 学部 教授)	
実施方法	対面授業	遠隔授業	対面・遠隔併用	
教室名	-	会場	-	
授業期間	2026 年 4 月 14 日 (火) ~ 2026 年 7 月 21 日 (火) <毎週 火 曜日> 7 時限・講時 19 : 20 ~ 20 : 50			
超過時の選考方法	書類により選考			
成績評価方法	定期試験 (筆記)	100		%
	レポート試験 (期末)			%
	平常点 (出席・授業態度)			%
	その他 ()			%
別途負担費用	なし		あり () 円	
その他特記事項	学期末試験の点数を基準に評価しますが、合格点を下回った場合には平常点を参考として使います。			
<講義概要・到達目標>				
【授業の目的と概要】 この科目は共通教養科目の一つです。「地域社会文化論(東南アジア)」や「文化人類学」「韓国語」「中国語」などといった科目を併せて履修することで、東アジアの文化や歴史がもつ多様な側面について体系的で総合的な知識を得ることができます。 この授業では、東アジア(主に中国、韓国、日本、台湾など)における文化の多様性について理解することを目的とします。今年度は宗教の側面に注目し、検討します。具体的な事例に目を向けることで、その歴史的文化的な背景を理解できるよう取り組みます。そのため、東アジアと記していますが、タイやインドネシアといった東南アジアやインドやスリランカといった南アジアにも関連する事項がありますので、それらも視野に含みます。				
【授業形態】 この授業はZoomを用いた同時双方向性オンライン授業です。開講時間に受講してください。ただし学期末試験は教室に来てもらい対面形式で実施します。 Zoom入室する際、「学籍番号・氏名」を表示してください。仮名ではZoom入室できません。				
【授業の到達目標】 この科目の到達目標は、経済学部のディプロマ・ポリシーである「社会人としての幅広い知識と汎用的能力」の習得をめざすことです。そのなかでもとくに「社会に関わる多様な学問に接し、広い知識と基礎的な考え方を習得している」ことを到達目標としています。 今年度の講義では、東アジアの多様性について、宗教、祭祀の観点から、歴史を遡り現在に至るまでを概観します。東アジアといった地理的な区分を超えた多様な宗教の影響が及んでいるので、ときには南アジアや東南アジアにも広がる領域を視野に入れて検討し、それらが創造する多様な世界観を理解できることを到達目標としています。				
【事前学習・事後学習など授業時間外の学習】 予習、復習の内容は授業内で指示します。講義のなかで取り上げた、あるいはそれに関連する資料は講義後にSULMSにアップしますので、復習用に利用してください。事前学習は必須ではありませんが、事後学習としてSULMSにある資料を読む、あるいは講義内容を復習するといったことを行ってください。また参考図書や資料を紹介しますので、読むようにしてください。参考文献も利用してください。				

<授業スケジュール>

回	月日	テーマ・キーワード
1	4月14日	はじめに この講義の進め方や目的などについて 取り扱う分野やテーマについて
2	4月21日	東アジア・東南アジアの宗教:日本
3	4月28日	東アジア・東南アジアの宗教:祖先祭祀その1
4	5月8日	東アジア・東南アジアの宗教:祖先祭祀その2
5	5月12日	東アジア・東南アジアの宗教:台湾・中国
6	5月19日	日本のなかの仏教
7	5月26日	宗教と不分明な利他的行為
8	6月2日	宗教における献身
9	6月9日	祖先祭祀におけるモノその1
10	6月16日	祖先祭祀におけるモノその2
11	6月23日	仏教とジェンダー
12	6月30日	神仏習合と廃仏毀釈
13	7月7日	東南アジアの神仏習合
14	7月14日	東アジアと東南アジアの宗教交流
15	7月21日	アジアのイスラーム

<教科書・参考書>

【参考書1】

ISBN 9784908672866

書名 土と石の記憶: 濟州島四・三事件と人びとの日常生活史

著者名 高村竜平

出版年 2025.11

【参考書2】

ISBN 9784874989234

書名 和解と平和の森: 北海道朱鞠内に朝鮮人強制労働の歴史を刻む

著者名 殿平善彦

出版年 2025.8

【参考書3】

ISBN 4480074074

書名 廃仏毀釈: 寺院・仏像破壊の真実

著者名 畑中, 章宏, 畑中章宏 著

出版年 2021.6

【教材に対する補足情報】

教科書は用いません。講義を受けて、ノートを取ってください。